

KOCHI ROTARY CLUB

2023
2024

SINCE 1937



世界に希望を生み出そう
2023-24年度 RIテーマ

週報



Weekly report 第3565回 2023年10月31日 2023年11月7日発行

● 会長挨拶



皆さん、こんにちは。本日はガバナー公式訪問例会です。吉岡ガバナーは、10月3日、タイミングよく高知県内の他クラブを公式訪問されており、高知RCの86周年の夜間例会においでいただきましたので、当クラブへは2回目の訪問となります。改めて感謝申し上げます。

すっかり秋らしい気候になって、朝晩は随分と気温が下がって風邪を引きやすくなっています。私も少し風邪気味で

す。明日からは11月ということもあって、本日の吉岡ガバナー公式訪問に際しては、男性の皆さんにはネクタイ着用をお願いしました。ネクタイからも季節の代わり目を感じます。

ネクタイというと、今日私がしているネクタイは10年前、2013-2014年度、関さんがガバナーとして国際大会に参加されたとき、男性にはネクタイ、女性にはスカーフをお土産にいただきました。それ以来、私の中では高知RCの公式行事のときにはこのネクタイをと、活用しています。そんなことで、今日はこのネクタイをしてきたという話を、改めてさせていただきました。



■本日のプログラム [11月7日]

新入会員スピーチ
野村証券株 高知支店長
水野 大樹 会員
「『証券報国』～資産形成と新NISAの羅針盤」

会	長	中	澤	陽	一
副	会	中	島	和	代
幹	事	細	田	長	司
副	幹	入	交	英	太
会	報	小	林	達	司
	責				
	任				
	者				

● **ロータリーソング** 「四つのテスト」

● **今週のピアノ曲** 「昂 すばる」

ピアノ演奏：宮地公美子会員

● **来訪ロータリアン**

国際ロータリー第2670地区ガバナー 吉岡宏美氏（徳島RC）

高知第II分区ガバナー補佐 吉村保利氏（高知北RC）

随行者 杉原孝典氏、井上篤弘氏（徳島RC）

西川義章氏（高知ロイヤルRC）

● **吉岡宏美ガバナーとバナーの交換を行いました。**

● **幹事報告**

・例会終了後、ガバナーご一行と記念写真の撮影を行います。

● **ゲストスピーチ**



ガバナーアドレス

国際ロータリー第2670地区ガバナー
吉岡 宏美 氏（徳島RC）

改めて、ご挨拶を申し上げます。今日は、貴重な例会の時間をいただきまして、ガバナー公式訪問をお受けいただきまして、誠にありがとうございます。



先ほど、会長幹事の皆さん方、また次年度の会長幹事の皆さま方と会長幹事会を開催をさせていただきました。私もあと14クラブほどを回ると、一応自分のお役目が終わるということもあって、これまで多くのクラブを訪問させていただいて、いろいろご意見もたくさんいただきます。これをやっぱり持って帰ってガバナー会で皆さんと相談し、そして、RIの皆さん方にももっとこういうことを一緒に考えてほしいなというのを願うのが、僕らの仕事でないのかなというふうに思っております。この間もガバナー会をオンラインで開催をいたしましたけども、ちょうどRIの佐藤理事に出席をいただいて、いろいろなお話もさせていただきました。

その中で、今年のゴードンR・マッキナリー氏のテーマ、「世界に希望を生みだそう」。どういうことに取り組むのか。今やってることをしっかり継続性を持って取り組んでほしい。そして、単に継続するだけでなく、変化を時代に合わせ、いろんな取り組みを変えていく。そういったこともぜひ取り組んでほしい。併せて、今までにない革新的な取り組みといったものにもチャレンジをしてほしいというお話がありました。

従って、私から皆さん方へのお願いは、チャレンジというテーマにさせていただきました。各クラブで取り組むべき課題といったものは、それぞれ違います。一つのテーマを選んで、このテーマで今年は1年頑張りましょうでは、それぞれのクラブ単位でやるべきこととは、ちょっと違ったものになる

というふうに思いますので、クラブでこういうことをやりたいということを決めて、今年取り組む皆さん方にとっては、じゃあ、そのテーマについて、全員でチャレンジをしてほしいという意味で、チャレンジということにさせてもらいました。クラブそれぞれで違った取り組みで、チャレンジをしていただくということをお願いをしているところでございます。ぜひ、皆さん方も今進めているテーマがたくさんあると思いますけども、それぞれクラブでのチャレンジ、そして、個人個人でロータリーの中で、こういうことに取り組むという目標もしっかりと確認をしながら、取り組んでいただくことをぜひお願いをしたいというふうに思います。

そして、佐藤RI理事との話の中で、今2670地区でこういうことをやっているということについて、少しお話をさせていただきました。一つは、地区の会計といったものにシステムを入れて、4県が同時に対応できる、そういったシステムに今変えていってます。次年度から、この会計のシステムが動きます。そうすると、4県が誰がガバナーを出しても、同じシステムで会計といったものが実行できるようになります。当然、前年度の予算案、実績といったものも、そのシステムの中で確認をしながら計画を立てることもできるし、そして、実行しているものが去年に比べて、どのレベルであるのかといったものも比較しながら、いろんな取り組みといったものを進めることができるようになります。

そして、事務局においても一つのシステムで、4県のどちらにガバナー事務所ができて、ネットをつないで、どこからでもオペレーションができる環境といったものをつくります。従って、ガバナー事務所が四国4県を回っていくことになっても、どこからでもネットワークをつないで、いつでもオペレーションをし、会計といったものが実行できるように変えていきます。継続性といったものをきちんと担保するということを目指します。

そしてもう1点は、できればガバナーが、これからどういうことをやるかということについても連携してやっていくということが、継続性の中には必要だと思っております。単年度のガバナー制ですけども、その年度のガバナーが何でも好き勝



手してもいいのかというと、そういう時代ではもうない。これからはやっぱりちゃんと継続性があり、そして、次年度のエレクトの皆さん方、ノミニーの皆さん方、そして、デグジネートの皆さん方が決まれば、そういう4人の方に一緒に参加してもらって、この地区として、こういう取り組みを継続してやっていきたいというものをつくり、それをみんなで承認をいただき、それが次年度のエレクトに、そして、ノミニーにつながっていく。そして、継続性のあるいろんな事業といったものを、それぞれのガバナーになったときに取り組んでいただく。当然、変化といったものもその中に含まれますし、新しい取り組みといったものも当然ガバナーが考えて、新しい取り組みに取り組んでいただくということになりますけども、やはり継続性といったものを、このガバナーの中でもしっかりそれを担保していかないと、単年度単年度で何でもやっていくという時代ではない。これがゴードンR・マッキナリー氏の継続性といったものにも、ちゃんと意味としてもあるんだというふうに思っています。

そして、そういうお話を佐藤RI理事に申し上げたときに、佐藤さんがこういうお話されました。「私が今、文書を作っています。全ての地区、全てのクラブにお願いする項目を記載して、近いうちにお送ります。それは何かというと、全ての計画といったものは、3年もしくは4年の計画を作って実行してください。ガバナーも、今年の計画でなくて、3年ぐらいでどういうことをやれるのかというのを考えて作ってください。その中で、今年はこういうことを進めるというものにしてください。そうしないと、1年でできるような環境というのは、今もない。2年、3年かけてやっていかないと、いろんな取り組みといったものは、実現しない。それを計画的に次のガバナー、そして、ノミニーにもつないで、そして計画的に実行していただく。それを単年度単年度で3年計画を作って実行してほしい」というお話がありました。

まさに、継続性といったものを一人の中でも今年の計画を作るのではなくて、クラブにおいても今年の会員増強の計画を作るとすれば、これからは3年間でどのように計画を進め、そして、会員をどのように増やしていくのかという計画を立てて、今年やるべきことを、今年実行していくというものに変えてほしいというのが、RI佐藤理事のお考えで、近々皆さん方のところにも文書で、継続性といったものを具体的にどういうものかということについてのメッセージが届くと思いますので、ぜひ、そういったものを参考にして、取り組みを進めていただけたらというふうに思っております。

それと、次に地区で今実行しているものというのが、さっき言いました「ガバナー会」といったものを地区でつくりました。ガバナーの皆さんに集まっていただいて、年に数回代表幹事も一緒に参加してもらって、これからどういうふうな取り組みをしていくのかということも打ち合わせをしながら、次年度に継続していくもの。そして、新しく次年度にこういうことに取り組んでほしいといったものを一緒に協議しながら、皆さん方のご理解を得ていただいた上で、取り組んでいくような、そういったガバナーの会といったものをつくることにしました。これも継続性といったものをしっかり担保しながら、変化を求めていく、そういった取り組みとして、実行していくということにしますので、皆さん方にはどうかご理解をいただき、そして、皆さん方にもいろんなことをお願いする機会もあると思います。ぜひ、そういったものにも対応いただ

たらというふうに思います。

次に、会員増強について少しお話をします。会員増強を当クラブにお願いしているということではなくて、地区の会員増強に、ぜひ皆さん方にお力をいただきたいというふうに思っています。今、地区の会員は2,900名ほどで維持しています。この5年間は、ほとんど一つのクラブの平均の人数が38名か39名で推移をしている。単純平均で、それぞれ40名ぐらいのクラブが全部あるのであれば、クラブは安定した収支といったものができますけども、どうしても人数の少ないところもあれば、当クラブのように何の心配もないクラブもあるわけなんだけども、やはり厳しいクラブといったものにみんなで応援して、会員の増強をお手伝いするようなことも考えていかないと、地区としては、そういった小さいクラブがもっと減少していくようなことにならないように、みんなで見ていく。そして、応援をするという取り組みがこれから必要でないのかなということもあって、お願いします。

先般、当年度がスタートしたときに、2670地区の代表幹事、前田代表幹事から皆さん方にアンケートのお願いをしました。そのアンケートというのは、今それぞれのクラブの平均的な年齢といったものを確認をしたい。年齢別の会員の数といったものを報告いただき、そして、当然女性会員の数も報告いただいて、集計をさせていただきました。今、2670地区で20代の会員って何人いるでしょうか。ご承知でしょうか。8名います。おお、結構いるやないかという方と、いや、もうちょっといいのになという方がなると思っています。じゃあ、30代の会員は何名でしょう。60名います。40代、今から頑張っているよという会員の集まりは、348名います。8名だった方が10代いくと60名になり、そして、さらに10代いくと340名を超えるんです。この20代、30代の方で、まだロータリーに入会していない方が、あと20年で340名まで増えるということになります。できれば、それを待たずに20代、そして、30代の会員がロータリーに入っただけのような仕組みといったものを考えて実行していただきたいというふうに思います。

あるクラブでテストケースとして、こういうことをやっていただいているところがあります。東ガバナー年度のときにEach One, Bring Oneというメッセージを皆さん方に問い掛けました。1人が1人の友達をロータリーに誘いましょうというテーマです。これをぜひ皆さんと一緒にやりましょうということで、そのクラブでは、若い会員が友達として、お付き合いをしてくれる会員でない一般の皆さん方に声を掛けて、1カ月間一緒にロータリーでご飯を食べて、ロータリーのメンバーといろいろ話をする機会をつくれます。ぜひ、一緒に来て食事しながら、ロータリーのことを一緒に勉強してくれませんかということでも声を掛けて、そんなにいつてくれるんだしたら、ご飯をいただきにまいりますといって来てくれた方が何名かおります。

その何名かの中で、3回目、4回目ぐらいになると、ロータリーの会員の中で知ってる方というのがどんどん出てきます。ちょうど取引先の方もおいでるし、昔から友達ですという方もたくさん出てきます。4回目のときに、ロータリーの入会の申込書を手渡して、「はい。ここにサインをしてください」と、今まで一緒に食事しても皆さんがみな集まってきて、早く早く名前書いてよって、こう攻めるというのではなくて促していく。「分かりました、じゃあ来週まで待つてください。



来週には、ちゃんと考えて返事をします。ちゃんと名前も書いて持ってきます」という返事で入会されました。その方が今28歳になって、この間お話をちょうどガバナー公式訪問のときにお会いして、いろいろお話を聞きました。

今、そのクラブでは、20代、30代のメンバーを1カ月に1回、全員前に出てもらって、その若い人たちがこの1カ月どういう取り組みをロータリーでしたのか、それを皆さんに発表してもらってます。ロータリーに入って、20代、30代でいろんなものに取り組んでいるわけではありませんけども、そういうことを発表する機会をつくるということで、彼らがロータリーの中に、こういう若い人があるというのを、常にみんなで意識できる環境といったものをつくってます。入ったんだけど、何もすることがなくて、ただ出ているだけということも継続していくと、下手したら退会してしまうというリスクもあります。それをきちんとカバーするために、毎月、入会してから毎月毎月1回は、自分がこの1カ月ロータリーで何をしたかを発表するという機会をつくって、そういった防止のための対応といったものにも心遣いをいただいているクラブがあります。

ぜひ、皆さん方においても若い人に声を掛け、そして、男性も女性も問わずに声を掛けて、入会をすぐに勧めるのではなくて、ロータリーをまず知ってもらう。そういった取り組みをぜひ一緒にしていただければというふうに思ってます。まずは、友達が1人の友達を食事にお招きし、そして、みんなでいろんな話をさせていただき、ロータリーの魅力といったものをしっかりとお伝えし、興味を持っていただく。そして、少しずつロータリーといったことを理解していただいたときに、一緒に仲間になりませんかと声を掛ける。そういった取り組みが若い人たちに、特に重要でないのかなと思います。

もちろん、今申し上げたように、30代、40代、50代といった者、特に40代から50代といった者がロータリーの大きな活動力の源にあります。こういった皆さん方にどんどん入会していただくということを今までもやってきましたけども、これからも、それは非常に大切なことですので、ぜひ、そういったことを忘れないように一緒に取り組んでいただけたらというふうに思います。

私は、今年のガバナーの方針の中に、女性会員を15%に引き上げましょう、女性の会員をどんどん勧誘しましょうというふうに、例会にも参加させていただいてお話をしました。怒られました。あなたは、男女を差別してと言われました。男は、もっともっと増やしましょうと言わないのに、なぜ女性だけ増やしましょうと言うんだと。これは、女性を優遇して、男性を差別しているように聞こえるとまで言われました。そういう考えも中には確かにあるのかなと思って、それから女性をという言葉をもう言うのをやめました。男性も女性も会員に入ってもらおうように、皆さん会員の増強に努めましょうと、今はそういうふうに申し上げますので、でも、女性の数が少ないというのは、もう明らかです。会員の候補として、女性が非常に多くあるということも事実だと思います。ぜひ、会員がもっともっと増えていく。できれば、RIが求めている30%に近づくような取り組みといったものも若い会員に入っていただくのと同時に進めていただくのをぜひお願いを申し上げたいと思います。

そして、今日はRIの今年のテーマの中で2点ほど皆さん

方にお話をして、ご理解をいただきたい項目がありますので、スライドで見ていただけたらと思います。

一つは、ダイバーシティです。今年、ロータリーのいろんな活動の中の一つとして、このDEIといったもの追加されました。DEIは、もう皆さんご承知のようにダイバーシティ、多様性といったものをしっかり担保しよう。エクイティ、皆さんに公平に対応しましょう。そして、インクルージョン、いろんな考え、いろんな取り組みをしている皆さん方を迎え入れていくという活動といったものにしっかり取り組んでいきましょう、というのが、このDEIです。そして、企業の経営においても既に日本では、2000年のはじめぐらいから、この企業経営のDEIといったものが、それぞれ企業の中で認識されて取り組みが強化をされてます。

次に、ダイバーシティインクルージョンというテーマについては、どういう概念かという、多様性を認め、受け入れて生かすこと。ロータリーであれば、いろんな考えを認め、いろんな価値観といったものを評価し、それを認め、そして、いろんな考えの方を大勢の皆さんの中で共有することによって、その多様性といったものをしっかりと認め、そして、評価をし、そして、ロータリーに受け入れて、またロータリーのいろんな活動の中に受け入れて、そういったいろんな違った考え方や思い、これまで取り組んできた経験といったものを生かしていくということが、この概念としての定義というふうに考えています。

次に、ダイバーシティDEIといったものが、そもそもスタートしたというのは、ここにあるように、こういったいろんな考え方等を差別するというのではなくてというのが、このスタートです。そして、これをはっきりと示したのが、1964年アメリカで社会的な差別を是正するという意味で、新公民権法といったものが施行されました。この新公民権法がまさにDEIのスタートです。そして、先ほど申し上げたように、2000年以降いろんな企業でも社会でも、このDEIといったものの取り組みといったものが進められています。そして、このダイバーシティといったものについて、インクルージョンの定義といったものがなかなか日本語で伝わりにくいということもありますけど、包括性というふうに日本語には、インクルージョンは訳されますけども、受け入れられて生かされてるといのは、このインクルージョンです。

ロータリーに入って、いろんな活動をし、そして、その能力といったものは、地域といったものをうまく生かし、いろんな活動にも参加してもらおう。そして、その成果といったものをみんなでしっかりと評価をする。評価されたメンバーは、このロータリーから必要とされているということも認識します。次回、いろんな取り組みをするときは、もっと頑張る、もっと皆さんに喜んでいただけるようなものを実行していきましょうという気持ちを生む、そういったものにつないでいくということが、この受け入れられて生かさせているということにつながります。

そして、今DEIといったものは、もう最先端の言葉、DEI & Bといったものに、もうつながってきてます。Bといったものは、belongingです。多様性、公平性、そして、インクルージョン、包括性といったものの上に、帰属意識を高める。そういったものを一緒に取り組んでいくということを求めています。その帰属意識といったものと連携して、非常に今重要視されているのが、このエンゲージメント、つながりといった



言葉です。

ロータリーにおいても会員と会員とのつながり、エンゲージメントといったものをしっかりと高めていく。いろんな事業を進める中で、そういった取り組みを進めていく。そういうことが今求められてるということも一緒にご理解をいただき、そして、いろんな考えが違う人でも一緒に話し合いをし、いろんな取り組みを、それぞれの経験、それから考えといったものをうまく活用することによって、活動自体にもっともっと新しい斬新な活動といったものを作っていく、それが成果としてきちんと表れる。それをみんなで共有しながら分かち合える。楽しい場所、ロータリーといったものをつくっていく。住み心地のいい場所として、ロータリーというクラブがある。そういうものを感じられるような時代、DEI&Bといったものに、ぜひ取り組んでいただきたいというふうに思います。

もう一つですけれども、今ロータリーでいろんな取り組みをしていただいています。吉村さんから、クラブに訪問させていただいて、いろんな項目についてどういう取り組みをされているのかということについてもお聞かせをいただきました。そして、SDGsの中の17のテーマのどれに該当する取り組みなのかというのを、少し結び付けて考えていただく機会といったものにしてほしいということも含めて、SDGsのこの項目に照らして、この取り組みをしてるんだということを確認をし、お送りをいただきました。

少し前に遡ると会長が2,258名いましたが今は2,215名、それだけ会長がいなくなっています。クラブが合併をするか、解散をされる。

先ほど申し上げました。当地区は今のところ会員数っていうのは、ほぼ維持できてますけれども、都市部では、どんどん会員数が減って行ってます。そして、会員数が減っている都市部の一つの要因というのが、クラブの会費です。今、東京でクラブの会費は50万円です。あと5万円の値上げを求められてるということもあって、会員の皆さん方にもそういう状況といったものをお話をする。そうすると、退会される方がやっぱり出てくる。会費を上げないといけないんだけど、50万円を超えてくると結構大変で、若い方には負担が厳しいということもあって、なかなか都会で会員が増えるどころか減少しているという状況といったものがあると。

そして、先ほども申し上げたように、ロータリークラブというのは、RIの会長でもなければ、ガバナーでもない、クラブが実行する場所なんです。ロータリーの活動といったものは、クラブが活動しているのであって、RIの会長、または我々がガバナーが何か事業をやっているわけではないんです。クラブが実行しないと、地区のロータリーといったものも成長しないということをぜひ理解いただきたい。ロータリーが主役なんです。ロータリーの主役はクラブなんです。ぜひ、それを理解していただきたいなと思います。

そして、これがSDGsとロータリーの比較です。右側がSDGs、左がロータリー、一番端にロータリーのDEIといったものが追加されてます。これをつなげると、左右逆になりますけれども、17の項目に対して、ロータリーがどこまでそれをカバーできているかという、見ていただいたら分かりますけれども、ほとんどもうカバーできている。ロータリーの活動すること自体が国連が手続きし、今2030年までに達成しようという目標を設定して取り組んでいる。その項目に、ほぼロータリーの活動自体もつながっているということが、ここで皆さんにも理解していただけるとと思います。ロータリーの活動が社会の活動にもつながっているということで、ご理解をいただきたいと思います。

でも、これは私が作った表なんで、間違ってるかも分かりません。僕の勝手な思いでつなげてる部分もあります。そのまま信用しないようにしてください。でも、大体は合ってるかなというふうに思ってますので、ぜひ、こういったものも一緒に考えながら、これからロータリーがいろんな事業を進める時、この事業って、国連が目標にしているSDGsの1番目から17番目のどの項目に該当する取り組みになるのかなというのも、少し考えながら事業といったものをつくっていく。そういうことにも、少し使っていただけたらと思って作ってますので、どうぞ、また機会がありましたら、こういうことも一緒に考えていただけたらというふうに思います。

以上で私からのお話は終わりですけれども、改めて、高知RCの会長幹事様、そして、全ての会員の皆さん方に、これまでのロータリーに対する取り組みに心から感謝と御礼を申し上げ、そして、今日このように大切な時間をいただいたことに心から感謝を申し上げて、皆さん方へのお礼のご挨拶とさせていただきます。どうも今日はありがとうございました。



◇ 例 会 変 更 ◇

高知南RC	11月 9日	創立記念夜間例会(阪)	高知RC	11月14日	ロータリー休日(三)
高知南RC	11月16日	例会場変更(阪)	高知中央RC	11月16日	職場例会(城)
高知北RC	11月20日	ロータリー休日(三)	高知ロイヤルRC	11月21日	定款第8条第1節により休会(高)
高知東RC	12月 6日	ロータリー休日(阪)	高知北RC	12月18日	クリスマス家族合同夜間例会(三)
高知RC	12月19日	忘年夜間例会(三)	高知ロイヤルRC	12月19日	クリスマス夜間例会(高)
高知東RC	12月20日	忘年夜間例会(阪)	高知南RC	12月21日	年内最終夜間例会(阪)
高知中央RC	12月21日	クリスマス家族夜間例会(城)	高知西RC	12月22日	忘年夜間例会(三)
高知北RC	12月25日	休会(三)	高知RC	12月26日	ロータリー休日(三)
高知ロイヤルRC	12月26日	休会(高)	高知東RC	12月27日	休会(阪)
高知南RC	12月28日	休会(阪)	高知中央RC	12月28日	ロータリー休日(城)
高知西RC	12月29日	ロータリー休日(三)			

※例会場ホテル：(三)…三翠園 (城)…城西館 (阪)…ザクラウンパレス新阪急高知 (高)…高知プリンスホテル

ニコニコ箱 【敬称略】

吉岡宏美ガバナー ニコニコへ
吉村保利ガバナー補佐 ニコニコへ

山中 謙治 }
松田 忠久 } 吉岡ガバナー、本日のご来訪ありがとうございました。先日の夜間例会と併せて、貴重なお話を賜りまして
新谷 竜司 } 重ねて御礼申し上げます。

西川 義章 (高知ロイヤルRC) 本日は榮えあるガバナー公式訪問の日にメイクさせていただきありがとうございました。この後の写真撮影もご用命いただき、重ねて御礼申し上げます。関さん曰く「稼ぎにきたな」財津一郎さんふう「そのとおへりです」

🌹 11月のお祝い

(会員誕生日)	西岡 剛	高橋 明子	正延 知行	岡内 聡典
	日和崎 守	筒井 善樹	荒井奈々絵	各会員
(配偶者誕生日)	中澤佐紀子	芝藤 由賀	千頭美弥子	
	福島やすの	天野 雅彦	各会員配偶者	
(結婚記念日)	藤田 徹也	水野 大樹	広末 幸彦	細田 長司 安藤 一臣
	松崎郷一郎	宮田 速雄	海治 勝彦	中田 由季 千頭 邦夫
	杉本芙美子	十河 睦友	福島 清三	入交 章二 竜口 淳也 各会員

◇ 出 席 率 ◇					
	総数	出席	欠席	マイキャップ	出席率
10月31日	(-8)90	56	21	5	74.39%
10月17日	(-9)90	52	10	19	87.65%

● 累計額 [10月31日現在]

ニコニコ箱	324,300円	ロータリー <small>さんさん</small> 燦々基金	123,787円	ポリオ募金	176,400円
-------	----------	--------------------------------	----------	-------	----------

■ 次週のプログラム [11月14日]

ロータリー休日

◆21日 ゲストスピーチ
司牡丹酒造(株) 代表取締役社長
竹村 昭彦氏
『「食・酒・人・宴」で土佐の未来を創る!』

創 立 昭和12年10月
例 会 日 火曜日 12:30~13:30
例 会 場 三翠園ホテル TEL(822)0131
事 務 局 高知市本町3丁目3-39 高知放送南館8階
TEL(824)8660 FAX(824)2529
E-mail shinairc@joy.ocn.ne.jp
HPアドレス <http://www.221.ne.jp/kochirc/>